

『鳴久者評判記』

―影印と書誌解題―

佐藤 悟

慶応元年（一八六五）十月に刊行された『鳴久者評判記』は幕末に流行した悪摺の評判記で、役者評判記の体裁に倣っている。本書に先行するものとしては文久三年（一八六三）に刊行された『三題噺作者評判記』があり、こちらはその名の通り、三題噺の作者の評判記である。悪摺はその当時の文壇や戯作者とパトロンの関係を知るための重要な資料であるが、現存するものは少なく、『年報』十六号（実践女子大学文芸資料研究所、一九九七年）掲載「調査報告 五十 『十六画漢悪縁起』影印と解題」もその一つである。この評判記で取り上げられた悪摺は現存するものがほとんどなく、関連資料も少なく、その解説には多くの困難を伴うが、幕末の文壇研究には避けて通れない資料である。

『鳴久者評判記』は活字本として徳川文芸類聚第十二『評判記』（国書刊行会、一九一四年刊）に収録され、広く知られている。ただふりがなが省略され、位付け等にも多少問題があるので、実践女子大学図書館を底本として、影印として紹介するものである。

体裁 横本一冊。黒色表紙。縦十、六糎、横十五、八糎。

構成 目録六丁。本文二十九丁、挿絵三函（四裏・五表、十一裏・十二表、十八裏・十九表）。

外題 「樂屋 鳴久者評判記 全 病名尽見立」

内題 「鳴久者評判記」

目録題 「樂屋 鳴久者評判記惣目録」

柱 「鳴久者目」「悪者」

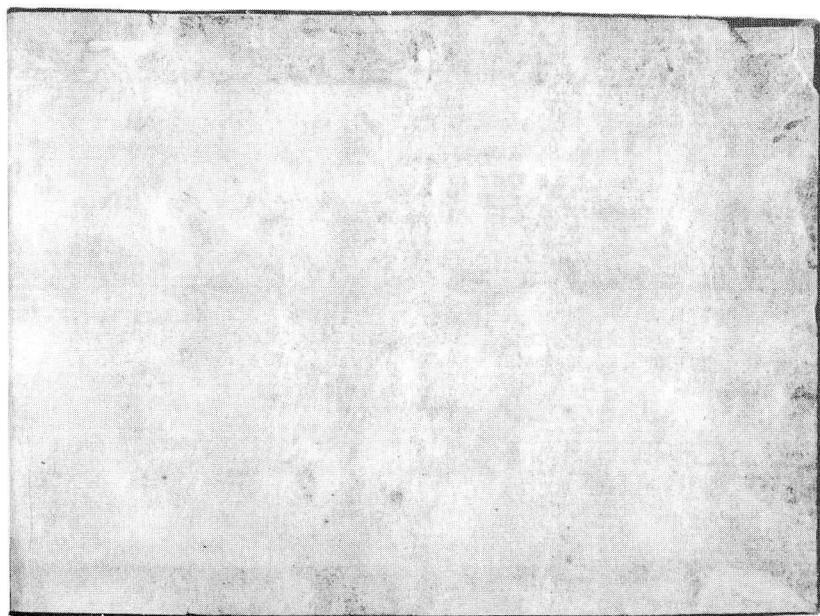
評者 悪文舎他笑

校訂 善哉亭夢窓

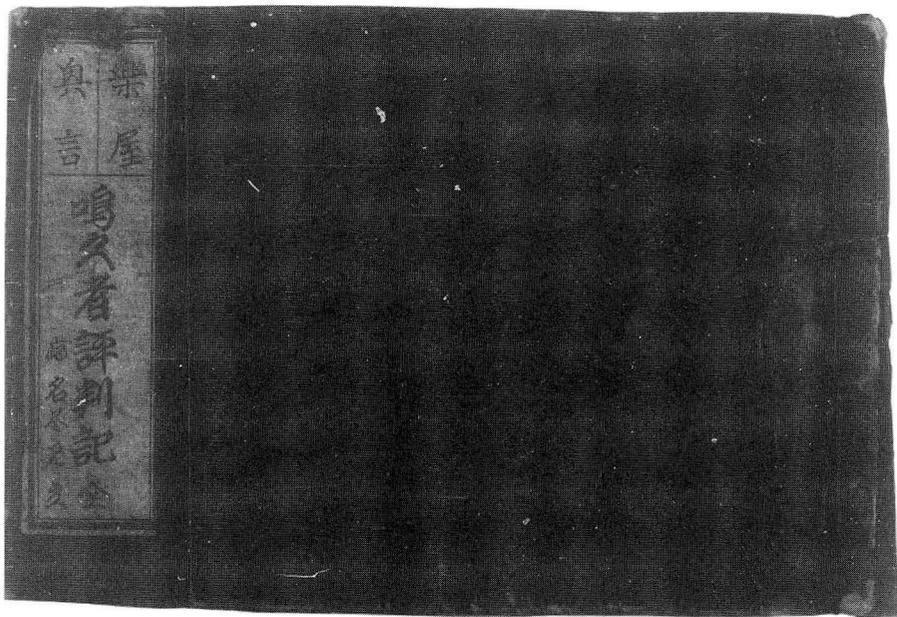
案元 悪文字屋悪左衛門

備考 「評者」「校訂」として二名の名が目録と巻末に載せられているが、これは八文字屋板の役者評判記に倣った

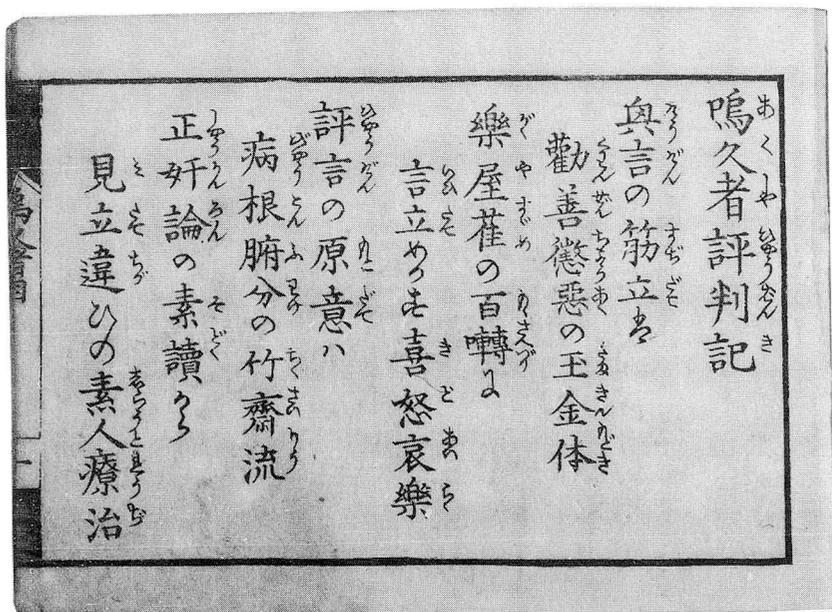
もので、実際の作者は仮名垣魯文の可能性が高い。本文二十九丁裏に「案元」とあるのが板元であろうが、これも役者評判記に倣った仮託である。また目録二丁表に「版元」として「伝馬町壱丁目 足立德三郎／松田町二丁目 染谷藤七／佐賀町三丁目 白縫功助」とあるが、これは悪摺の版元を意味するのであって、実際の版元は白縫功助こと広岡屋幸助であろう。本書の注釈は次号以降に掲載する予定である。



(表紙見返し)



(表紙)



(目1オ)

四ノ者目

作者ハ阿弥内の

誓^{ちか}と^りの^りれ^ね

宮戸川の邊に住ふ

悪文舎

他笑^(悪)

技^{わざ}訂^つハ^あ藜^{あざ}堂^{どう}の

草^{くさ}う^を連^ま中^{ちゆう}

浅草寺の麓に居る

善哉亭

夢窓^(善)

慶應元

乙丑季秋

(目1ウ)

四ノ者目

真上吉 嗚呼笑止

あつふせく汗をうせる風邪

太上吉 大津イヌ^(ぬ)

六二連中の版をうごを痢病

太上吉 悪玉相摸

東西あつくおまの瘡毒

太上吉 邪魔^(ま)くら

あつくおまを楊梅瘡

太上吉 舌出し蛸

海をんを教教のまの瘡

太上吉 盛衰奇術

あつふ者よちとあつて幾病

太上吉 團食堂

あつてあつてあつて幾病

太上吉 辻賣真黒

あつてあつてあつて幾病

(目2ウ)

樂屋 鳴久者評判記惣目録

版元

傳馬町壹百足立德三郎

松田町三丁目 漆谷藤七

佐賀町三丁目 白縫功助

○彫刻の板面ハ持分病とよ書業
の見立草の配削左の如し

▲實惡卷頭

大極上吉 痛墮羅々真

愚者もじとあやと評判の病病

▲實惡卷軸

無類 盛衰競

まろくん悪い筋とむく病氣

▲實惡敵役之部

大上上吉 南子の馬鹿

性来で泡とふいとてんかん

(目2才)

上上吉 破 衣

破よろろび 眼泣や

上上士 の怪ら川

藤五まきとるを者かろみ

上上士 女牛の石摺

女いろうふとろとす白

上上 小刀板木

水みろんの おろりやみ

上上 小和連物

いのちくんの 内接

▲写本實惡別座

至上吉 浴衣の道之記

お板ーとろあめく 登り丸

▲立役卷頭

至上上吉 脚色の種本

たろろとそめく病との種分

(目3才)

大上吉 ▲立役巻軸 地獄変相
根づくとちうこふま 痲

▲立役之部

大上吉 万八番乗組
日冬まよとま 痲痺

大上吉

大はあゆ

小刀細ユで身とくろくごのそ

上上吉

醒 醉 競

せんきくろく引かしくのり

上上吉

善 玉 競

麻子をとていさの象風物

上上吉

安 久 散

引れを葉のきぬ血の道

上上吉

重ノ字小地獄

ちくあやまきくちうの虫

(目3ウ)

大上吉

白石くどく

身の上とらふまより小送と痲

▲若女形娘形之部

大上吉

玉 梅 錠

トたんきうのど 霍乱

上上吉

ふんじ 洗ヒ

まこー魚のまどろ 痲

上上吉

柳の悪玉

怪人のまい込ねんのそろ

上上吉

若 柳

ちろつとまのあまきう眼

▲濡事二幅對

大上吉

雨夜の封切

若 草 筋

よね一對の 薙 魂 病

(目4ウ)

上上士 あくむ石
りまきよあきき痛まひ
 上上士 鼻競連合
まろあり目よさぬん病
 上上 悪 紋 附
額 天 豹
 上 逆 馬 船
竹 馬 船
悪 玉 千 社
ひるまへあとりん
 大上上吉 穴 婦 仕 合
まよのよむやくとあたまを病恋
 ▲若女形巻軸
 ▲若女形巻軸

(目 4 才)

▲近則下り悪者之部
 悪 万 遍 似 人 競
 伏 魔 殿 翻娘 奏 精 推 鏡
 悪 銭 鑑 惡 玉 評判 記
 照 魔 鏡 假 名 根 本 不 忠 臣 藏
 キンクワの帳消 狂 八重菊内話
 珍 變 金 瓶 梅 惡 喜 夜 典
 見 本 大 口 記 色 破 短 哥
 不 知 假 名 盛 衰 記 狂 舌 出 志 三 馬
馬若の諸病の内考の病を之勝榮に蕉は
 追く發病を粘く見立たりあや
 ▲画工等耕彫摺技者之部
 落合 裁 以 帝 名 搦 孫 文 帝
 宮 懺 法 三 帝 野 橋 文 三
 村 川 芳 春 甘 堂 妙 藏
 大 宅 壺 次 村 搦 昌 三
 葛 瀧 為 前 清 水 柳 三

(目 5 才)

▲真言作者之部

三木芳盛
歌川國彦
市瀧絶豊
倭園冠旌
武田發丸
安立富安女
柳亭左乐
浦上月彦
初角女
川端狂舟
松橋大政
右田安七
初余万次常
初余友吉
柳亭桐女
奥山東玉
養茶真何の玉
園本大章
福井心彦
武田勝次

足立座

假名垣魯文
安火堂竹馬
紺全坊四得
甘教屋五郎
石井一庭
出素扇夫
梅素扇夫

(目5ウ)

二世仙舟号

▲頭取之部

五石亭積丸

野善吉餘慶

春風屋藤久

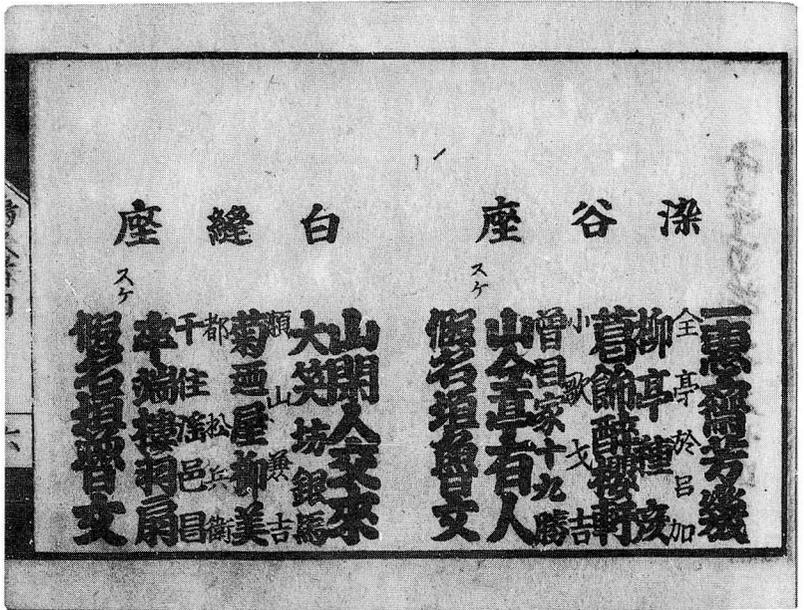
十萬桐雨

雲松蘭美庵

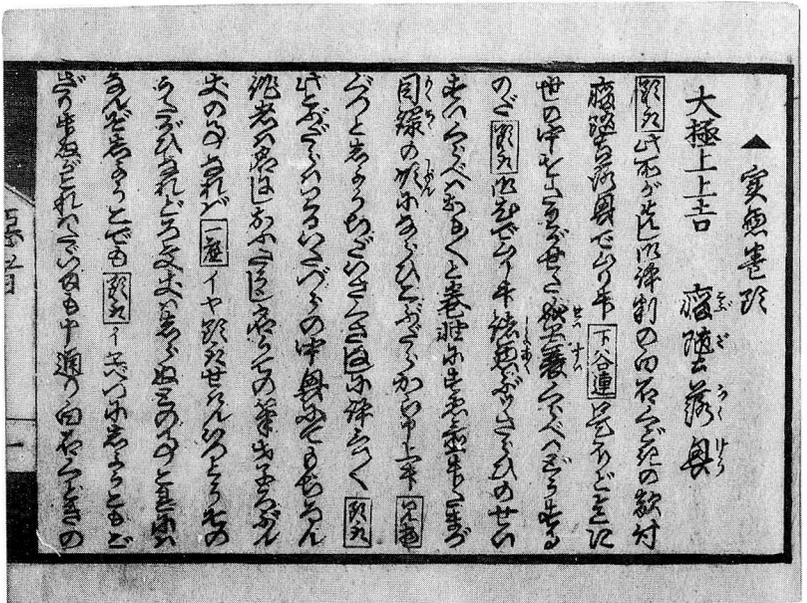
瀬川如皋
楓阿吕成
河竹其水

千早万苦本名世呼

(目6ウ)



(目 6 才)



(1 才)

既久 栴の捺別を今夫の後には能くいひも
後物ト云ふもにて仲るのれぬよるなり
中へもくくすはつりよ

上上言 禪 何んひ

既久 細かまうがもんうのうまをちり
あまーつひたなり半ごうのうまゆり
おも体まあくかて解一うむをが無道の
うたつた教の仕出ーうむつりうまゆり半
陣中 唯れ名を類言らあ梅あふからうま
うのうま一くあてがう 既久 うまゆり
あまの振あまのうままをー 既久
わす所辺へつひのめあまのうま
つまのうまれんうまをまのうま
あまーがうま(うま)うま(うま)うま
あまーがうま(うま)うま(うま)うま

(19ウ)

あまの振あまのうままをー 既久
わす所辺へつひのめあまのうま
つまのうまれんうまをまのうま
あまーがうま(うま)うま(うま)うま
あまーがうま(うま)うま(うま)うま
あまーがうま(うま)うま(うま)うま
あまーがうま(うま)うま(うま)うま
あまーがうま(うま)うま(うま)うま
あまーがうま(うま)うま(うま)うま
あまーがうま(うま)うま(うま)うま
あまーがうま(うま)うま(うま)うま

(20ウ)

だのどいひのあんでのおちめのとてうふまじ
ゆるくはたむらじのあはて千余條まのり
とてやう合巻連アア申ふのあひまのありやとて
利権利権の二条がぬゆらう利権そまの進とて
なぞらへまてぬいふまじうのたませう

▲ 追加之儀之邪

大上吉

清濁黒白濁

取れ世のくたのやあかたをうまてくま
ましくあかたへしれたうちと新にまてま
ひのまのまじとせひまままてたづめのま
功業世のくたのまのまてくまてくま
を記そまかんお月八まんを岸小あまを
あまがうとあまきく功業がうせあま
のんせうとあまきく功業がうせあま
あまがうとあまきく功業がうせあま

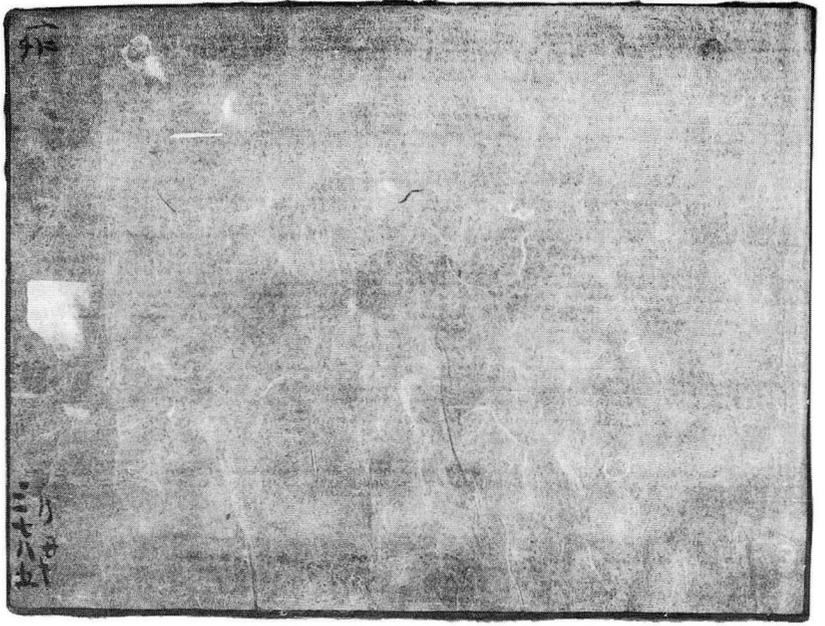
(25ウ)

けふのまるとあんどつあんとあくとあ
仙果せえんじて板せつてはひのまきう
宛かへと実来まどめま材かぶれん
後まひにあらまきまど柳清のまき
かんまあぬ人返り思案のまき
まきとらけか入らりのまき
まきとらけか入らりのまき
まきとらけか入らりのまき
まきとらけか入らりのまき

大上吉、 謙、 吝、 行

取れ世のくたのまのまてくま
ましくあかたへしれたうちと新にま
ひのまのまじとせひまままてたづ
功業世のくたのまのまてくま
を記そまかんお月八まんを岸小あ
あまがうとあまきく功業がうせあ
のんせうとあまきく功業がうせあ
あまがうとあまきく功業がうせあ

(26ウ)



(裏表紙見返し)